

指標 10.4.2

指標名、ターゲット及びゴール

指標 10.4.2 財政政策の再分配インパクト

ターゲット 10.4 税制、賃金、社会保障政策をはじめとする政策を導入し、平等の拡大を漸進的に達成する。

ゴール 10 各国内及び各国間の不平等を是正する

定義及び根拠

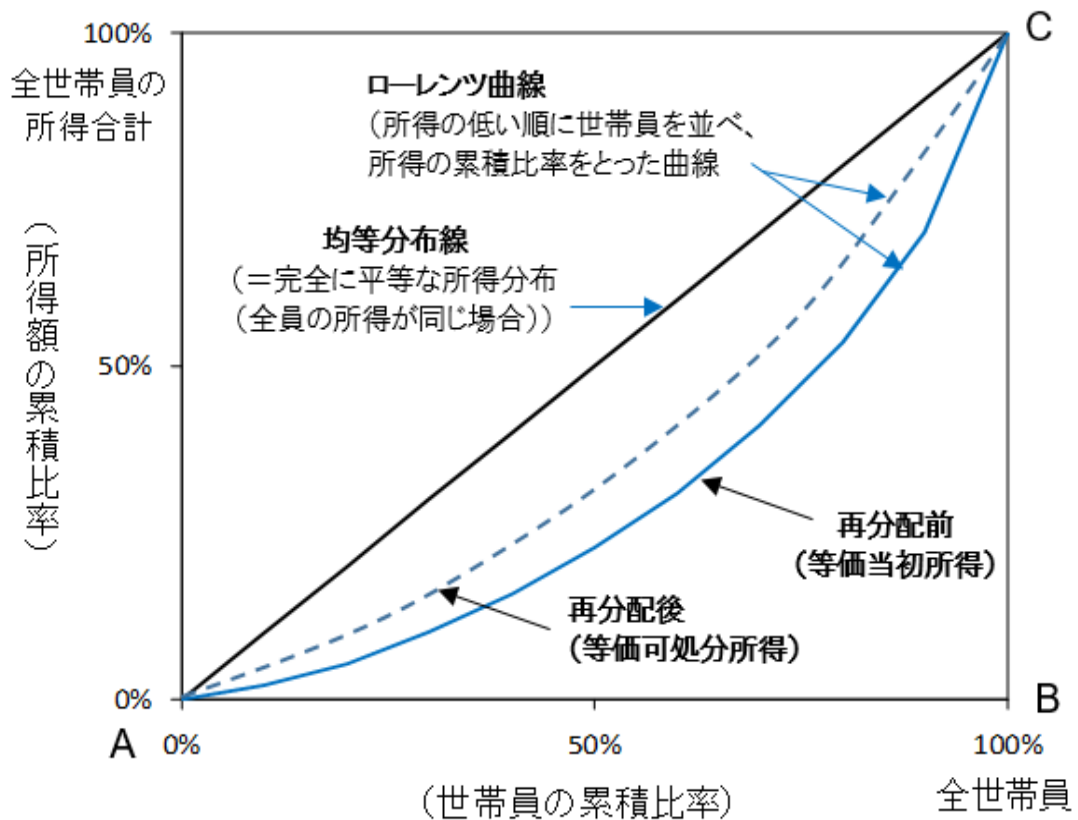
○ 定義

本指標は、所得などの分布の均等度を示す指標として用いられるジニ係数（再分配前・再分配後）により測定する。

○ 概念

- ・ ジニ係数：世帯員を所得の低い順に並べ、所得額の累積比率を縦軸に、世帯員の累積比率を横軸にとってグラフを描く（この曲線を「ローレンツ曲線」という）。ジニ係数は、ローレンツ曲線と均等分布線とで囲まれる弓形の面積が均等分布線より下の三角形部分の面積に対する比率をいい、0から1までの値をとる。0に近いほど所得格差が小さく、1に近いほど所得格差が大きくなる。
- ・ 当初所得：雇用者所得、事業所得、農耕・畜産所得、財産所得、家内労働所得、私的給付（仕送り、企業年金・個人年金等、その他の所得）の合計
- ・ 総所得：当初所得に社会保障による現金給付額（公的年金、失業給付、児童手当等）を加えたもの。
- ・ 可処分所得：総所得から税・社会保険料等を控除したもの。
- ・ 等価当初所得（再分配前）：世帯の当初所得を世帯員数の平方根で除して調整（※）したもの。
- ・ 等価可処分所得（再分配後）：世帯の可処分所得を世帯員数の平方根で除して調整したもの（医療・介護・教育等の現物給付は含まない）。

※世帯によって世帯員数や世帯構成が異なるため、同じ所得水準の世帯でも世帯員単位で見たとときの生活水準が同じと単純に評価することができない。世帯の所得をどのようにして世帯員単位に変換するかについては、本来、世帯人員数や世帯員の年齢構成などを考慮することが必要であるが、こうした変換は非常に複雑であることから、OECD などでは、世帯の所得を世帯人員の平方根で割って調整したものを「等価所得」として算出し、世帯員単位の所得とみなすという方法がとられている。



$$\text{ジニ係数} = \frac{\text{ACで囲まれた半円形の面積}}{\text{ABCで囲まれた三角形の面積}}$$

○ 根拠及び解釈

ジニ係数は、所得などの分布の均等度を表す指標であり、国内の不平等レベル及び動向をモニタリングする上で有用である。

データソース及び収集方法

国民生活基礎調査及び全国家計構造調査（全国消費実態調査）

算出方法及びその他の方法論的考察

○ 算出方法

国民生活基礎調査から導き出された、再分配前（等価当初所得）及び再分配後（等価可処分所得）のジニ係数

全国家計構造調査（全国消費実態調査）から導き出された、再分配後（等価可処分所得）のジニ係数

○ コメントと限界

・国民生活基礎調査の「新基準」は、OECDの所得定義の新たな基準で、従来の可処分所得から更に「自動車税・軽自動車税・自動車重量税」、「企業年金の掛金」及び「仕送り額」を差し引いたものである。

・国民生活基礎調査におけるジニ係数は参考値として提供しているものである。

データの詳細集計

年齢別（18-64歳、65歳以上）

参考

・ OECD Income Distribution Database (IDD)

※下記 URL にある「by Country」から Japan を選択

<http://www.oecd.org/social/income-distribution-database.htm>

・ 全国家計構造調査（全国消費実態調査）

<https://www.stat.go.jp/data/zenkokukakei/2019/index.htm>

<https://www.stat.go.jp/data/zensho/2014/index.html>

データ提供府省

総務省、厚生労働省

関連政策府省

内閣府、厚生労働省

担当国際機関

世界銀行グループ